

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5149498号  
(P5149498)

(45) 発行日 平成25年2月20日(2013.2.20)

(24) 登録日 平成24年12月7日(2012.12.7)

(51) Int.Cl.		F I			
<b>A 4 4 C</b>	<b>5/18</b>	<b>(2006.01)</b>	A 4 4 C	5/18	G
<b>A 4 4 C</b>	<b>5/20</b>	<b>(2006.01)</b>	A 4 4 C	5/18	C
			A 4 4 C	5/20	B

請求項の数 4 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2006-243338 (P2006-243338)	(73) 特許権者	000135759
(22) 出願日	平成18年9月7日(2006.9.7)		株式会社バンビ
(65) 公開番号	特開2008-61842 (P2008-61842A)		東京都台東区台東4丁目32番1号
(43) 公開日	平成20年3月21日(2008.3.21)	(74) 代理人	100066290
審査請求日	平成21年9月7日(2009.9.7)		弁理士 岩田 享完
		(74) 代理人	100113804
			弁理士 岩田 敏
		(72) 発明者	中川 聡
			埼玉県鴻巣市箕田1780-5 株式会社 イワツキプレジジョン内
		審査官	川上 佳

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 装身具バンドの中留構造

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

下板と中板と上箱からなる装身具バンドの中留構造であって、

下板に設けられた係止用突起部を係止するための中箱を、中板と上箱の間に回動自在に介在させてなり、中箱は、互いに交差して係止用突起部を係止する係止部を有する一対の反発する係止片と、中板と連結するための中板用連結部と、上箱と連結するための上箱用連結部とを備え、中板の角がバンドに当たらないことを特徴とする装身具バンドの中留構造。

【請求項2】

上箱が、皮革バンドの尾錠孔に挿入するツク棒を備えた皮革用上箱であることを特徴とする請求項1記載の装身具バンドの中留構造。

【請求項3】

上箱が、金属バンドと連結可能な連結孔を備えた金属用上箱であることを特徴とする請求項1記載の装身具バンドの中留構造。

【請求項4】

時計バンド用の中留構造であることを特徴とする請求項1から3のいずれかに記載の装身具バンドの中留構造。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、下板と中板と上箱からなる装身具バンドの中留構造に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、下板と中板と上箱からなる装身具バンドの中留構造には、特許文献1に開示されたものがある。特許文献1の中留構造は、図5に示すように、下板（下板部材8）と中板（中板部材14）と上箱（枠部材28）とを備えた中留構造1であって、プッシュボタンケース本体24が、中板（中板部材14）と上箱（挿通枠18）の間に位置し、中板（中板部材14）の他方の端部に、折り畳み可能に連結されている。そして、下板（下板部材8）の係止ピン3が、プッシュボタンケース本体24に係止する構造となっている。

【0003】

【特許文献1】特開2006-115992号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、上記した特許文献1に記載の中留構造には、以下のような課題を有している。  
 (1) 図6に示すように、下板と中板と上箱を開いた状態で、中板（中板部材14）の角がバンドに当たるため、バンドを傷めやすい。

(2) プッシュボタンケース本体24は、調整ピン（ツク棒）30がプッシュボタンケース本体24に設けられた係合窪み部（凹部）15に弱い力で喰い付く構造となっているため、調整ピン（ツク棒）30の長さを長くしなければならず、バンド部材（皮革バンド）4を枠部材（上箱）28に通す際に、厚さのあるバンドは通しづらく、また、バンドを傷めやすい。

【課題を解決するための手段】

【0005】

そこで、本発明は、上記課題を解決することを目的としたものである。

第1の発明は、下板と中板と上箱からなる装身具バンドの中留構造であって、下板に設けられた係止用突起部を係止するための中箱を、中板と上箱の間に回動自在に介在させてなり、中箱は、互いに交差して係止用突起部を係止する係止部を有する一対の反発する係止片と、中板と連結するための中板用連結部と、上箱と連結するための上箱用連結部とを備え、中板の角がバンドに当たらないことを特徴とするものである。

第2の発明は、上箱が、皮革バンドの尾錠孔に挿入するツク棒を備えた皮革用上箱であることを特徴とするものである。

第3の発明は、上箱が、金属バンドと連結可能な連結孔を備えた金属用上箱であることを特徴とするものである。

第4の発明は、時計バンド用の中留構造であることを特徴とするものである。

【発明の効果】

【0006】

本発明によれば、以下のような効果を有する。

(1) 本発明は、中板と上箱の間に中箱を回動自在に介在させているので、下板と中板と上箱を開いた状態で、中板の角がバンドに当たらず、バンドを傷めることがない。

(2) 下板と中板と上箱を開いた状態において、中箱の両端が固定されているので（一端側は中板に、他端側は上箱にそれぞれ固定されている）、非常に安定性があり、また、拳などを通す際に障害とならず、さらに、中箱分だけ大きく開くので拳などを通すスペースに余裕ができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。

図1および図2は、皮革バンドの中留構造を示す説明用斜視図である。

まず、中留構造10は、下板20と中板30と中箱40と上箱50を備えている。下板20の一端は、皮革バンド80と連結部材11を介して回動自在に連結されており、他端

10

20

30

40

50

は、中板 30 と回動自在に連結されている。また、下板 20 には、皮革バンド 80 寄りに係止用突起部 21 が設けられている。

【0008】

下板 20 と連結する中板 30 は、他端を中箱 40 と回動自在に連結しており、中箱 40 は、さらに上箱 50 と回動自在に連結している。従って、下板 20 と中板 30 と中箱 40 と上箱 50 はそれぞれ隣り合うように回動自在に連結されている。図 2 は、特に中板 30 と中箱 40 と上箱 50 の連結状態を示したものである。また、上箱 50 は、皮革バンド 81 の尾錠孔 82, 82, ... に挿入するツク棒 51 を備え、皮革バンド 81 と長さ調整を可能にしながら接続する。

【0009】

そして、下板 20 と中板 30 が折り畳まれた状態において、下板 20 の係止用突起部 21 が、中箱 40 と係止することで、皮革バンド 80, 81 を手首等の装着部位に装着することになる。ここで、中箱 40 は、同種の中留構造に一般的に用いられているプッシュ式の中箱であり、互いに交差して係止用突起部を係止する係止部を有する一対の反発する係止片を備えたものであり、その係止片の端部がプッシュボタン 41, 41 を形成する。

【0010】

図 3 は、中留構造 10 の開いた状態を示す説明図である。図 3 に示すように、中板 30 と上箱 50 の間に中箱 40 を介在させることで、中板 30 の角が皮革バンド 81 に当たらず、皮革バンド 81 を傷めることがない。また、中箱 40 の両端がそれぞれ中板 30 と上箱 50 に固定されているので、非常に安定性があり、また、拳などを通す際に障害とならず、さらに、中箱 40 の分だけ大きく開くので拳などを通すスペースに余裕ができる。

【0011】

図 4 は、金属バンドの中留構造を示す説明用斜視図である。

図 1 ないし図 3 は、皮革バンドの中留構造であったが、上箱 55 を金属バンド 86 と接続可能なものとし、下板 20 を金属バンド 85 と連結部材 11 を介して回動自在に連結することで、金属バンドにも対応した中留構造 15 を提供できる。なお、金属バンドの中留構造 15 においても、図 3 で示した皮革バンドの中留構造 10 と同様の効果を有する。

【産業上の利用可能性】

【0012】

本発明は、装身具バンドの中留構造に広く利用できるものであり、例えば、時計バンドやリストバンド、腰ベルトなど、その他装身具のバンドに該当するものについては、広く利用できるものである。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図 1】皮革バンドの中留構造を示す説明用斜視図（全体図）。

【図 2】皮革バンドの中留構造を示す説明用斜視図（部分図）。

【図 3】中留構造の開いた状態を示す説明図。

【図 4】金属バンドの中留構造を示す説明用斜視図（全体図）。

【図 5】従来例（特許文献 1）を示す斜視図。

【図 6】従来例（特許文献 1）の課題を示す説明図。

【符号の説明】

【0014】

10	中留構造（皮革バンド用）	11	連結部材	15	中留構造（金属バンド用）
20	下板	21	係止用突起部		
30	中板				
40	中箱	41	プッシュボタン		
50	上箱（皮革用上箱）	51	ツク棒	55	上箱（金属用上箱）
80, 81	皮革バンド	82	尾錠孔	85, 86	金属バンド

10

20

30

40



---

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭53-166673(JP,U)  
登録実用新案第3015770(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
A44C 5/18  
A44C 5/20